第 8 回

越 谷 市 教 育 委 員 会 議 事 録

平成 29 年 7 月 27 日

定 例 会

平成29年第8回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 平成29年7月27日
 招集の場所 第3委員会室
 開閉会日時 開会7月27日 午前 9時30分
 閉会7月27日 午前11時55分
 休憩 午前11時25分～午前11時40分

出席委員

委員長	住田 俊	委員長兼 職務代理者	堀川 智子
委員	進藤 秀子	委員	荒木 明子
委員 (教育長)	吉田 茂		
欠席委員	なし		

説明のため会議に出席した者の職氏名

教育総務部 副部長兼 スポーツ振興 課長	矢部 新治	学校教育部長	瀧田 優
教育総務課長	渡辺 真浩	学校教育部 副参事兼 学務課長	岡本 順
図書館長	横山 みどり	学校教育部 副参事兼 指導課長	小林 俊夫
生涯学習課 調整幹	木村 和明	学校管理課長	紺野 功
選定委員長 (西方小学校長)	片平 秀徳	給食課長	田川 啓二
選定委員 (大間野小学校長)	兼子 紀美江	教育センター 所長	鈴木 雅彦
		給食課 調整幹兼 第一学校給食 センター所長	石川 智啓
		指導課調整幹	青木 元秀

指導課主幹 長谷川 裕 晃

職務のため会議に出席した者の職氏名

教育総務課 並 木 智 史
副 課 長

	議 事	て ん 末
議 事 状 況	議 案	
	・第23号議案 越谷市教育委員会事務局職員の越谷市への出向について	秘 密 会
	・第24号議案 越谷市文化財調査委員会委員の委嘱について	原案可決
	・第25号議案 平成30年度使用小学校教科用図書の採択について	採 択
	協議事項	
	・教育外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策について	
	・平成29年度越谷市教育費補正予算について	
	その他	
	・平成29年度第1回越谷市いじめ問題対策連絡協議会について	
	・平成29年度第1回越谷市いじめ防止対策委員会について	

◎開会の宣告

住田委員長 これより7月の定例教育委員会会議を開会いたします。

本定例会に関し、ただいま24名の方から傍聴許可願が提出されておりますが、第23号議案については、人事案件であることから秘密会とし、先に審議したいと思っておりますが、これにご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

住田委員長 ご異議ないようですので、そのように進めさせていただきます。

また、本定例会においては、長時間の審議が予想されることから、議案の審議が終了した段階で約15分間の休憩を設けたいと、そう思っております。

それでは、これより秘密会といたします。

(午前 9時30分)

住田委員長 ここで、傍聴人の入室を許可してください。

〔傍聴人入室〕

住田委員長 審議に入る前に、傍聴人の皆様にお知らせいたします。

本定例会においては、長時間の審議が予想されることから、議案の審議が終了した段階で15分程度の休憩時間を設けるといふふうに考えております。

◎第24号議案 越谷市文化財調査委員会委員の委嘱について

住田委員長 それでは、第24号議案 越谷市文化財調査委員会委員の委嘱についてを議題といたします。

教育長のご説明をお願いします。

吉田教育長 生涯学習課調整幹。

木村生涯学習課調整幹 それでは、第24号議案 越谷市文化財調査委員会委員の委嘱についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の5ページをお開きいただきたいと思います。

第24号議案 越谷市文化財調査委員会委員の委嘱について。

越谷市文化財調査委員会委員を次のとおり委嘱するものとする。

平成29年7月27日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、越谷市文化財調査委員会委員が平成29年7月31日をもって任期満了となるので、その後任委員を委嘱する必要があるため、提案するものでございます。

越谷市文化財調査委員会につきましては、越谷市域内の文化財保護に係る調査や審議をするこ

とを目的としており、専門性が高いことから、委員の委嘱に当たりましては、民俗や郷土の歴史、考古学等、それぞれの学識を有する方をお願いしたいと考えております。

また、越谷市文化財調査委員会委員は、越谷市文化財保護条例第4条により設置されており、委員の数は越谷市文化財調査委員に関する規則第2条により7名と定められております。

任期は同規則同条により2年と定められており、今回委嘱させていただく皆様につきましては、平成29年8月1日から平成31年7月31日までとなります。

では、名簿に沿って、氏名、所属、役職等、性別、任期のうち新任、再任の別の順に申し上げます。なお、その際、敬称については省略をさせていただきます。

板垣時夫、白岡市教育委員会・専門員、男、再任。

栗田孝夫、越谷市立花田小学校・教諭、男、再任。

鈴木照子、NPO法人越谷市郷土研究会、女、新任。

高崎光司、元越ヶ谷高校・教諭、男、新任。

富樫雅彦、練馬区立石神井公園ふるさと文化館・館長、男、新任。

矢口孝悦、元羽生市教育委員会・事務局職員、男、新任。

山口亮、越谷市立北中学校・教諭、男、新任。

以上7名の委員構成でございますが、男性が6名、女性が1名で、女性の比率は14.3%となっております。また、再任の方が2名、新任の方が5名でございます。

第24号議案についてのご説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

住田委員長 これより本案に対し、質疑、討論を行います。

ご質問またはご意見等ございますでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 ないようですので、これより第24号議案を採決いたします。

本案は原案どおり決することにご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

住田委員長 ご異議ないものと認めまして、本案は原案どおり可決いたしました。

◎第25号議案 平成30年度使用小学校教科用図書の採択について

住田委員長 それでは、続きまして、第25号議案 平成30年度使用小学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

教育長のご説明をお願いします。

吉田教育長 指導課長。

小林指導課長 それでは、第25号議案 平成30年度使用小学校教科用図書の採択についてご説明申

し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の7ページをお開きください。

第25号議案 平成30年度使用小学校教科用図書の採択について。

平成30年度使用小学校教科用図書を別紙のとおり採択するものとする。

平成29年7月27日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、「特別の教科である道徳」の実施に伴い、平成30年度から使用する教科用図書を採択する必要があるため、提案するものでございます。

越谷市立小中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び越谷市立小中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第3条の規定により、本市教育委員会で行うこととなっております。

恐れ入りますが、会議要項の9ページをお開きください。今年度採択する教科用図書は、採択一覧表としてお示しいたしました、特別の教科である道徳の1種目でございます。

なお、採択の手順につきましては、越谷市立小中学校使用教科用図書採択事務要領2の規定により、初めに越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会委員より選定資料に基づく報告を行います。その後、必要に応じて教育委員の皆様から質疑応答を行います。これらの報告及び質疑に加え、お手元の各学校の調査研究集計一覧、教科書展示会来場者が提出した意見等をもとにご協議いただいた後、採択をお願いいたします。

第25号議案についてのご説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

〔傍聴人から「資料の配付」について要望あり、委員長から会議要項以外の資料の追加配付は行わない旨説明〕

住田委員長 それでは、審議に入る前に、委員の皆様にお諮りをいたします。

採択の方法ですが、小学校道徳科の8種類の教科用図書発行者について、教育委員がそれぞれ5段階で評価した上で順次無記名で投票し、評価点数の総合計が最も高い教科用図書発行者を採択することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

住田委員長 ご異議ないようですので、そのように進めさせていただきます。

それでは、これより教科用図書採択に係る審議に入ります。

それでは、ここで選定資料の報告のため、選定委員の入室をお願いします。

〔選定委員入室〕

住田委員長 それでは、「特別の教科である道徳」に係る教科用図書について、選定委員より選定資料の報告をお願いいたします。

兼子選定委員（大間野小校長） それでは、道徳の教科書について説明を申し上げます。まず、東

京書籍の教科書につきましては、学習指導要領の目標とのかかわりでは、主体的に学習に取り組めるよう、学習のテーマ（主題）が示され、目次の他に、これから1年間で学ぶこととして、子どもにわかりやすい言葉で4つの視点ごとに内容項目順にまとめ、見開きで示してあります。児童一人一人が道徳的諸価値を自分とのかかわりで捉え、理解を深めるために、児童にとって身近な題材を取り上げ、自分の経験と重ねて考え、実感を伴って理解できるよう工夫されており、より重要と考えられる内容項目に複数教材を配置し、繰り返し指導できるようにしています。また、つながる、広がるのページを手がかりに、他の教科の学習につなげたり、日ごろの生活に広げたりできるようにしています。自分の考えや意見を書く振り返りのページがあり、児童が自己を見詰め、考えを深める活動をすることができます。

内容につきましては、現代的な課題であるいじめについて、いじめのない世界へで2つの教材を組み合わせたユニット形式を取り入れ、より深く考える工夫をしています。また、情報モラル教育についても、情報モラルとマークで示し、学年の発達段階に応じた話題を取り上げており、家族とも話し合いができるように工夫されています。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、出会う、触れ合うのコーナーでは、人とかかわりの中で考えることができる学習活動が取り入れられ、問題を見つけて考えるのページでは、みんなで問題を見つけ、考えるステップを活用して話し合う問題解決的な学習が設定されています。

3の資料についてでございますが、これにつきましては、各社とも児童の学習意欲を喚起するために、活躍するスポーツ選手や偉人など児童に親しみのある題材から、国際理解や自然について児童の新たな気づきを促す題材まで幅広く扱われており、多様な生き方、考え方を学べるよう工夫されています。また、挿絵や写真、図表などもカラーで見やすく、児童がイメージを膨らませ、自分の理解を深めるものが用いられています。

4の表記、表現につきましても、各社とも配当学年の漢字にルビが振られ、難解な言葉や必要な情報を脚注で解説しています。読み物教材と道徳科の内容項目の示し方については、4つの視点を色分けしてマークで示し、わかりやすくなっています。字体、色使い、レイアウト等についてユニバーサルデザインなどが用いられており、読みやすい、見やすい教科書となっています。

総括といたしましては、越谷市の子どもたちが学んでいく上で、初めにこんな自分になりたいなというページがあり、学習の振り返りやこれからも輝く自分という書き込み欄に記入して、自分を振り返り、よりよい自分を見つける活動を通して自己肯定感を高める工夫があります。また、問題解決的な学習を促す考えるステップ等で、より主体的に学ぶ児童の育成が期待できます。また、伝統や文化を扱う教材の他に、付録のつながる、広がるで国や郷土のことを扱っており、児童一人一人が自分の住む郷土に対する関心をもつことができるよう工夫されています。

続きまして、学校図書の教科書につきまして説明させていただきます。読み物と活動の2冊に分かれているのが特徴です。1の学習指導要領の目標とのかかわりでは、児童が主体的に学習に

取り組めるよう、学習のテーマが、主題が文字とマークで示されています。活動の目次は、児童にわかりやすい言葉で4つの視点ごとに内容項目順にまとめ、見開きで示してあります。児童一人一人が道徳的諸価値を自分とのかかわりで捉え、理解を深めるために、また読み物と対応する形で、活動に、話し合おう、考えよう、見詰めようという活動や発問があり、自分の考えを深め、自分の生き方について考えることができる工夫があります。広げようのページでは、テーマをより身近なことに広げて考え、今後の自分の、自己の実践につなげることができるよう工夫されています。

内容につきましては、各学年とも、公正公平、社会正義の内容項目において、現代的課題を意識して教材が選定されています。読み物コラムのページに、言葉、情報コラムや命の輝きとして課題と関連するものが取り上げられています。活動で、児童が自分の生活体験を想起しながら、日常を振り返ってチェックしたり、自分の考えを書いたりする欄が設けられています。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、活動の中に、話し合おう、考えよう、見詰めようや書いてみよう、やってみよう、児童が主体的に取り組める発問や活動があり、問題解決的な学習や体験的な学習が工夫されています。

3、4につきましては、先ほど説明させていただきましたとおりです。

総括といたしましては、読み物では、学習のテーマが示され、児童が課題意識をもって学習できること、活動にある考えようや見詰めよう、やってみようなど、児童が主体的に取り組める発問や活動を通して問題解決的な学習、体験的な学習を促すなど、多様な道徳学習を促す工夫があります。また、活動の巻末で、上手な聞き方、話し方の資料もあり、児童のコミュニケーション能力の向上を目指す工夫があります。

教育出版の教科書につきましては、学習指導要領の目標とのかかわりでは、主体的に学習に取り組めるよう、学習のテーマが示され、考えさせたい視点が子どもにわかりやすい言葉で示されているので、問題意識や見通しをもって学習を始めることができます。また、学習の手引きがあり、教材の内容を多面的、多角的に考え、自己を見詰める発問が工夫されており、児童が自分の経験と重ねて考え、自分自身のこととして捉え、これからの自分について考えを深めることができる工夫があります。道徳的諸価値について、体験を通して行動化を図るためにジャンプで役割演技があり、スキルでスキルトレーニングを全学年で取り入れ、道徳的な行動を身につけ、道徳的实践力を育成できる工夫があります。

内容につきましては、現代的な課題を、いじめをなくす、情報モラル、生命尊重の3つに重点を置き、教材にはマークをつけてわかりやすく示しています。同じ内容項目を連続して扱うことにより、課題解決に向けてより深く考えることができるよう工夫されています。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、導入時に学習の課題を明確に把握させ、学習の手引きで発問について考えることで問題解決的な学習ができるようにするとともに、ジャンプで児童が役

割演技を通して道徳的価値の理解を深めることができるよう工夫されています。また、教材によっては、最後に吹き出しにより児童の考えや予想される発言なども示し、話し合いの手がかりにできるよう示してあります。

3の資料、4の表記、表現につきましては先ほどのとおりです。

総括といたしましては、冒頭の道徳開きで1年間の目標を立て、自分の考えを書いたり、話し合ったりするなどして自分の考えを深める問題解決的な学習や、ジャンプで役割演技等の体験的な学習を通して自分の成長を振り返ることができる工夫がされています。また、巻末で、1年間の道徳の学習を振り返ることで、児童が心の成長を実感し、さらなる意欲をもつことができ、自己肯定感の高揚につながるよう工夫されています。

光村図書の教科書につきまして、学習指導要領の目標とのかかわりでは、主体的な学びができるよう学習のテーマがあり、児童が課題を意識して取り組むことができるよう示してあります。教材の終わりに、考えようがあり、道徳的問題を明らかにする問い、道徳的価値について考えるを深める問い、自己を見詰められる問い等があり、自分の経験と重ねて考え、自分とのかかわりで道徳的な価値について考えることができるよう工夫があります。また、つなげようでは、学んだことや考えたことを他教科の学習や日常生活の中で生かす促しや問いがあり、学びの記録があり、自分の成長を実感し、自己肯定感を育み、道徳性を育成する工夫がされています。巻末の私たちの学ぶ世界では、道徳の学びの広がりを見視覚化して理解できる工夫があります。

内容につきましては、現代的な課題であるいじめの問題や情報モラルについては、教材とコラムのユニット形式になっており、自分の考えを深め、話し合いができるよう工夫されています。また、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、考えようでは、自分の経験と結びつけて考える学習活動や人とのかかわりの中で考えることができる学習活動、役割演技で体験的な学習ができる工夫があります。つなげようでは、道徳的価値をより広い視点で考え、話し合う活動があり、巻末にはよい人間関係をつくる話し方のコツがあり、体験的な学習の促しがあります。学びの記録に、学びを生かしたことや自分の成長を実感して記入できる欄があり、自己を見詰め、自己の成長に気づくことができるよう工夫されています。

3の資料、4の表記につきましては、さきに説明させていただいたとおりです。

総括といたしましては、学習の初めに問いかけがあり、主体的な学びを促しています。また、児童一人一人の学習の充実を図るために、教材ごとに考えようがあり、道徳的問題を明らかにする問い、道徳的価値について考えを深める問い、自己を見詰められる問いなどがあり、自分の経験と重ねて深く考え、話し合い、書いて考えたことを学びの記録に残し、書きとめることで自分の成長を実感できる、そのようなことで自己肯定感の高揚につながる工夫があります。

続きまして、日本文教出版の教科書につきまして説明させていただきます。道徳ノートが別冊となっているのが特徴です。学習指導要領の目標とのかかわりでは、道徳の扉のページに、子ど

もにわかりやすい言葉で4つの視点ごとに内容項目順にまとめた全体図が見開きで示されています。教材ごとに主題が示され、キャラクターによる問いかけがあり、問題意識をもって学習に取り組むことができる工夫があります。児童にとって身近な題材を取り上げ、自分の経験を想起しながら、自己とのかかわりで考えを深めることができます。心のベンチのコーナーでは、教材と関連した内容や活動を示し、より広く深く考えることができ、道徳以外の教育活動とも関連づける工夫があります。道徳ノートには、自分の考えや友達のことを聞き、気づいたことを振り返るチェックの欄もあり、自分を見詰める活動ができるよう工夫されています。

内容につきましては、現代的な課題であるいじめについて、人とかかわりというユニットで取り上げられており、心のベンチでいじめについて考え、話し合いを行い、自分の考えを深める活動ができるページがあります。情報モラル教育については、自分を守る力というユニットで扱われ、学習の手引きでは問題解決的な学習を進めることができるよう工夫があります。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、心のベンチで教材とつなげて考えを深める学習活動が取り入れられ、問題を見つけて話し合うのページでは、対話的で深い学びに迫る学習活動が、学習の手引きでは、役割演技などを用いた体験的な学習など、多様な学習活動を通して理解を深める工夫があります。

3の資料や4の表記につきましては、さきに説明したとおりです。

総括といたしましては、問題解決的な学習や体験的な学習を通して考えたことを道徳ノートに書くことで、さらに自己を見詰め、道徳的価値についての理解を深めることができます。また、ICTを活用した学習等も取り入れられ、言語活動の充実を図るよう工夫されています。道徳ノートを使って、教科書で目指すことや学習内容を家庭、地域と共有することができ、学校、家庭、地域が一体となった道徳教育を進められます。学習の手引きのページで、アクティブ・ラーニングを展開することができ、自己の生き方を主体的に考える工夫があります。

続きまして、光文書院の教科書につきましては、学習指導要領の目標とのかかわりでは、学習のテーマが示され、読み物教材ごとに児童が問題意識をもって取り組めるよう問いが示され、自分とかかわりで考えられる発問が工夫されています。自己の生き方への考えを深めるために、下段に物事を多面的、多角的に考えさせる問い、吹き出しがあり、末尾には学びを日常生活に広げるための話し合いを促す提案があります。児童一人一人が道徳的価値を自分とかかわりで捉え、理解を深めるために、巻末に学びの足跡を活用して振り返りを行い、児童みずから成長を実感できるよう工夫されています。また、道徳性を育むために、重点主題教材を続けて学習し、深めることができるように工夫されています。

内容といたしましては、現代的な課題であるいじめについて、児童が自分自身の問題として捉えられるよう教材を選定し、コラムで、児童がさまざまな角度から課題を考え、主体的にかかわる態度を育み、生活の中で実践的に結びつけられるよう工夫があります。また、規則の尊重など

の教材で、情報モラルにかかわる内容を扱い、情報社会で適正な行動をとることが考えられるようにしています。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、考える、まとめるの項目が設けられ、みんなでやってみようが設定され、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築を図るグループワークが提示され、問題解決的な学習、体験的な学習を通して道徳的価値に気づき、考える工夫がされています。

3の資料、4の表記につきましては、前に申し上げたとおりです。

総括といたしましては、冒頭に道徳開きのページがあり、道徳で学んだことをさまざまな生活の中で考え、どんな自分になりたいかという問いがあり、課題意識をもって学習に臨むことができます。また、話し合いの仕方、調べ方、まとめ方などを取り上げた教材があり、主体的に話し合いを進め、言語活動の充実を図る工夫があります。また、児童のコミュニケーション能力を高める題材や、私は広がるのページで、授業の学びをもとに自分の夢をもち、これからの生き方を考えさせるよう工夫されています。

学研教育みらいの教科書につきましては、1年間の学びを4つの視点ごとに内容項目順にまとめた全体図が見開きで示されています。児童がみずから主体的に課題を見つけ、解決する能力を培うために、読み物教材には題名のみで、あえて主題名は示さない工夫がされています。読み物教材ごとに、考えよう、つなげよう、深めようということがあり、多様な発問や考える手順が記載されています。児童が自分とのかかわりで深く考えることができるよう工夫があります。児童一人一人が道徳的諸価値を自分とのかかわりで捉え、理解を深めるために、身近な題材を取り上げ、自分の経験から実感を伴って理解できるよう工夫されています。教材の末尾に、考えようで道徳的価値について考える視点を示し、つなげよう、広げようで実践意欲を高める工夫があります。

内容につきましては、現代的な課題であるいじめの問題について、命の教育を重点テーマとして、連続して複数の教材で複数の時間扱うユニット形式を取り入れています。情報モラル教育につきましては、学年の発達段階に応じて、全学年で教材を扱い、身の回りにある題材を取り上げ、児童が身近な体験から実感を伴って考えられるよう工夫されています。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、考えようで主題にかかわる話し合いを進め、4種類の学び方のページ、深めよう、つなげよう、やってみよう、広げようで、問題解決的な学習や体験的な学習など多様な学びができ、自己を見詰め、自分の生き方や生活につなげて考える学習が工夫されています。

3の資料、4の表記、表現につきましては、前に説明させていただいたとおりです。

総括といたしましては、児童が主体的に課題を見つけ、発問の工夫により自分の考えを深め、考え、話し合いを通して解決する資質や能力を培うよう工夫されています。学び方のページ、深めよう、やってみよう、広げようでは、多様な学習活動を通して、授業で学んだことや考えたこ

とにより自己の生き方を深く考える学習ができるよう工夫されています。また、多様な学習活動を通して規範意識や自己肯定感を育み、実践意欲を高められるよう工夫があります。

廣済堂あかつきの教科書につきましては、教科書と道徳ノートが分冊となっている特徴があります。学習指導要領の目標とのかかわりでは、主体的に学習に取り組めるよう、学習のテーマ、主題が示されています。巻末に、子どもがわかりやすい言葉で4つの視点ごとに内容項目順にまとめた一覧があります。道徳ノートは、内容項目順に構成され、巻末付録に振り返り表がついています。児童一人一人が道徳的諸価値を自分とのかかわりで捉え、理解を深めるために、教材ごとに考えよう、話し合おうがあります。道徳ノートの内容が多面的、多角的に自分を見詰め、考える構成となっています。また、学習を広げよう、活動しようでは、さらに考えたことを広げて道徳的実践意欲を高める工夫があります。

内容につきましては、現代的な課題であるいじめについては、生命尊重に重点を置き、命について考えるページがあります。情報モラルにつきましては、発達段階に応じて、児童が自分とのかかわりで深く考えられるよう、また家族とも話し合いができるよう工夫されています。考え、議論する道徳を通して道徳性を育成するために、教材ごとに考えよう、話し合おうがあり、主体的に考え、問題解決的な学習や体験的な学習等で自分の考えを深め、自己を見詰めることができるよう工夫されています。また、道徳ノートに自分の考えを記入できる欄が設けられており、それをもとに主体的な話し合いができるよう工夫されています。

3の資料や4の表記につきましては、前に説明させていただいたとおりです。

総括といたしましては、教材ごとに主題が明示され、考えよう、話し合おうがあり、学習の道筋を示してあります。児童が自分とのかかわりで主体的に考え、自分の考えを深めることができるような発問があり、話し合いをするなど問題解決的な学習等を進めることができます。また、道徳ノートに記入したことが子どもの心の記録となって、みずからを振り返り、みずからの成長を実感し、自己肯定感の高揚を図ることができるよう工夫されています。家庭のチェック欄もあり、家庭と連携した道徳教育を進められる工夫もあります。

以上でございます。

住田委員長 続いて、選定委員会として推薦する教科用図書についてご意見を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

片平選定委員長（西方小校長） 選定委員会では、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員7名全員が8種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。35点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍、27点。11番、学校図書、24点。17番、教育出版、21点。38番、光村図書、28点。116番、日本文教出版、25点。208番、光文書院、26点。224番、学研教育

みらい、34点。232番、廣濟堂あかつき、22点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、34点の学研教育みらい、28点の光村図書、27点の東京書籍を推薦いたします。

以上でございます。

住田委員長 ただいまのご説明を受けての質疑を行いたいと思います。

各委員の質問について、選定委員のご回答をお願いしたいと思います。

今、それで、3社のご推薦が、投票の結果の順番で示されておるわけでありませけれども、皆さんのご意見等ございますでしょうか。

堀川委員 選定委員会において、今回1号委員ということで保護者の方が入っておりますけれども、どのようなご意見がありましたでしょうか。

兼子選定委員（大間野小校長） 保護者の方からはいろいろな意見が出されましたが、1号委員から主に7つの意見が出されました。

1つ目は、子どもたちが興味をもち、主体的に考え、自分の意見や考えをもてる教科書がよいという意見。

2つ目、現場の先生方がやはり指導しやすいものがよいという意見。

3つ目、現代的な課題であるいじめに関するものを扱った教科書がよいという意見。

4つ目、人間関係についてしっかりと扱っている教科書がよいという意見。

5つ目、いろいろな題材がバランスよく入っているのがよいという意見。

6つ目、教科書の大きさやノートがあるかないか、このあたりは余り関係ないのではないかとという意見が出されています。

最後に7つ目、どの教科書を選定するにしても、実際に授業を進めていく上で先生方の研修が大切ではないかという意見が出されました。

以上でございます。

堀川委員 ありがとうございます。

住田委員長 他にはいかがでしょうか。どうぞ。

吉田教育長 わかりづらかったのですが、大きさ、ノート、余り関係ないと。これは、もう少し具体的に、少しわかりやすく説明してください。

兼子選定委員（大間野小校長） 今回、見本にあります道德の教科書がございますが、見本を見ていただきますとわかるように、A4判のように非常に大きくなっているものと、それから比較的大小さが小さいもの、それからノートが入っていて厚くなっているもの、あるいは幅の広い教科書など、非常に各社、特徴があります。そういう中で、今、子どもたちがたくさん荷物を持って学校に来るわけですが、その大きさとか厚さとか幅が広いとか、そういうことは余り選定の要素にはならないのではないかとという意味のご意見というふうに取り扱っております。

吉田教育長 要は、内容重視でということですね。

兼子選定委員（大間野小校長） はい、内容重視でということです。

吉田教育長 わかりました。

住田委員長 他にはいかがでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会で、特に協議をしたことは何かありますでしょうか。

兼子選定委員（大間野小校長） いろいろ協議を重ねてまいりましたが、大きく分けると、8つに分けられると思います。

まず1つ目ですが、特別の教科道徳の学習指導要領の目標を達成する上で、どの教科書が越谷の子どもたちにとって一番適切かという視点で考える必要があるのではないかとということ。

2つ目、教科書発行者が8社あるのですけれども、その中で主題を明記してある教科書が7社、明記していない教科書が1社です。子どもたちがより主体的に学ぶ上でどちらがよいのか、どちらにしても、学ぶ子どもたちが主体的に考えられる教科書がよいのではないかという意見です。

3つ目としましては、学びの道筋が明らかなほうがよいのか、余り決まっているのは価値の押しつけになる心配があるのではないかという意見です。子どもの本音を引き出して、教師と児童と一緒に授業をつくっていくことを目指すことが必要ではないか。

4つ目としましては、越谷の道徳のこれまでの積み重ねや越谷の道徳が目指してきたものがあるので、これまでの実践や研究をさらに発展させることが大切ではないかということです。

5つ目です。今まで柱立てをして、主人公の気持ちを追って考える授業を展開されていることも多かったのですが、主題を考えさせたいという、主題に迫る中心発問を考えて、子どもに深く考えさせる授業など、研修を深めて工夫する必要があるのではないか。

現代的な課題であるいじめの問題や情報モラルの教育についての教材が充実しているものが望ましいのではないか。

教科書の分冊や別冊は余り、先ほどありましたが、関係ないということで、これまでも道徳のノートは各学校で工夫してつくってきている。道徳ノートに関しては、各内容が余り縛られ過ぎていたり、制限されているのは逆によくはないのではないかと、やはり自由度が必要ではないかということ。

それから、8つ目です。考え、議論する道徳を進める上で、学習の手引きなどで発問が決まり過ぎていたり、逆に議論が深まらないのではないかとということ、これは児童の本音が出にくいという意味です。児童の本音を引き出し、考えを深める授業をする必要があるということ。

以上8つのことについて、考え、意見が大きくありました。

以上でございます。

住田委員長 他には。

進藤委員。

進藤委員 今のご説明の中に出てきました、越谷市がこれまで積み重ねてきたものということがございましたけれども、簡単に、どんなことをおっしゃっているのか教えてください。

片平選定委員長（西方小校長） 越谷市における道徳は、当然、学校における道徳教育並びに道徳教育の振興会議等に基づきまして、それぞれ、先進校、それに各校が授業を実際積み上げてまいりました。6つの特色がございまして、1つ目はまず総合単元的な道徳学習の計画という形で、道徳の時間をかなめといたしまして、狙いに関連する他の教育活動を意図的、計画的に組み入れて授業をやっていたという経緯がございます。

また、2つ目といたしまして、話し合いの柱立てということで、教材から子どもたちが感じた問いや感動をもとに話し合いの柱立てを立てていくことで、主体的な学び、問題解決的な学びの実現を図ってきたという経過があります。

さらに、3つ目といたしまして、書く活動を重視してまいりました。今まで使っておりました道徳ノートや、または事前にとったアンケートなどをポートフォリオとして活用している学校も今までございました。

さらに、道徳を進めるに当たりまして、道徳の時間とはということで、学年の最初の時間に道徳のオリエンテーションを取り入れて、子どもたちに1年間の道徳の学習の見通しをもたせている学校が大変多かったということがございます。

5つ目の指導方法といたしましては、研究校での授業の形をもとに各校に広めていくという、ベーシックを各校で活用していくというような形でございましたが、考え、議論する道徳への転換を図っているところでございますので、考え、議論する道徳が進められるような教科書ということは先ほど兼子委員からあったところでもございますけれども、そのところが大きな検討事項でございました。

さらに、教材教具といたしまして、お話の世界に浸ったり、登場人物に共感しながら心情を探るということで、紙芝居やパネルシアター、場面絵やキーワード等を書きまとめた短冊等を積み重ねて、各学校が、教育財産としている学校も多いという、この6つの前提が越谷市の道徳教育というような形で話し合いの中では整理させていただいています。

住田委員長 よろしいですか。

他にはいかがでしょうか。

どうぞ、教育長。

吉田教育長 教材教具の共有化というようなところが越谷の多くの学校でやられている、そういうような現状かと思うのですが、いわゆる資料分析みたいなものとか、それも一つの共有財産として残していかなければというような視点ではどうですか。

片平選定委員長（西方小校長） 先ほど申しましたように、話し合いの柱立てを立てる前に教材分

析を十分積み重ねておきませんと、子どもたちの出た意見をどのような形で指導の計画の中に生かしていくかということがうまくいきませんので、先ほど言っていました教材分析については、各校で重点的に取り組んで、多くの教材について、そのシートができ上がって、共有財産として活用しているところです。

吉田教育長 そうすると、ポートフォリオというお話がありましたけれども、そこの関連性で教材分析は進んでいるという考えでよろしいですね。

片平選定委員長（西方小校長） はい。

住田委員長 他にはいかがでしょうか。

本当に、私は小学校の教壇に立ったことがないので、少し細かなことで、こういうものが話題になったのかどうか、少しお聞きしたいのですけれども。たしか、幾つかの教科書会社によって、リンカーンと書いてあるのと、リンカンと書いてあるのとありましたね。両方とも文科省の検定を通っているのでは、間違いがないのだらうと思いますけれども、そういうのは話題になったでしょうか。

兼子選定委員（大間野小校長） そこにつきましては、細かい部分については話題に出ていなかったです。

住田委員長 両方とも教科書としては検定を通っているわけですから、いいのだらうと思いますけれども。私なんかは、古い人間ですから、リンカーンで習っているものですから、どうも失礼いたしました。

吉田教育長 指導課長、何か補足はありますか、今の件について。

小林指導課長 選定委員会の中で、調査部会の中でも話題にはなっていないのですが、そもそも検定に通っている教科書ということで、表現については、特に片仮名表記については、このリンカーンだけではなくて、横棒、ハイフンを入れる、入れないというのは、他にも結構あるところがございますので、子どもたちの指導の上では特段問題はないのかと思います。

吉田教育長 同じ資料中に、リンカーンだったり、リンカンだったりするから、どうなのかと。もしそれもあるのだったら、確認をして、文科省なり問い合わせさせていただき。検定したからって、全部間違っていないということはなく、後から間違いに気がついたということもあるので、その辺は少し確認して。

小林指導課長 再度確認しておきます。

住田委員長 他にいかがですか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 それでは、他になければ以上としたいと思います。

選定委員の先生方、どうもありがとうございました。

〔選定委員退室〕

住田委員長 それでは、協議に入らせていただきます。

選定資料にある、5つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点の1番目で、学習指導要領の教科の目標とのかかわりについてご意見ございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 学習指導要領の教科の目標とのかかわりということで、道徳的価値を理解し、また理解を深めさせる、そういったことをどう意識づけさせるとかというのが非常に難しいことなのだろうなと思って、どのような工夫がされているのか見させていただきました。

今、選定委員さんからの説明の中にもありましたけれども、東書さんなどは、目次の次のページにわかりやすい言葉で4つの視点ごとに内容項目をまとめて示しています。

学研も、見開きで1年間の学びがわかるように、わかりやすい言葉で項目順にまとめられています。そして、全体図が示されております。あと、2年ごとにテーマが示されていて、1、2年生では豊かな心を育てよう、3、4年生は大きな心を育てよう、5、6年生では心を鍛え、自分らしく輝こうというふうな、発展させていくようなテーマというふうに感じました。

また、光村さんの巻末には私たちの学ぶ世界というページがあって、1年間で学ぶ内容が広がりを持って、いろいろな世界とつながっているというようなものが一目でわかるように、視覚的に非常に実感できるように工夫されているのではないかな、とてもこれは印象に残りました。

あと、日文さんは、道徳の扉というページに、4つの視点ごとに全体図が見開きで示されております。子どもたちが主体的に、自然にみずから考えていけるように、このような導き方ということがあるのかなというふうに捉えました。

私からは以上です。

住田委員長 他の方はいかがですか。

どうぞ、教育長。

吉田教育長 今回、教科化に至った大きなきっかけは、背景に深刻ないじめ問題とかがあるかと思えますけれども、そこで、道徳的な実践力の育成とか、あるいは道徳の時間の履修の徹底というようなことが言われて教科化に至っているというふうを考えているわけですが。道徳的実践力の育成ということでは、越谷市はずっと続けてきているわけですが、自分に省みてどうなのという問いかけ、課題を自分のものとして捉えるということが大事なのかなというふうに思っています。そういう問いかけがどれだけあるのだろうというようなことで、8つの教科書会社の教科書を見させてもらいましたけれども、そういう問いが多いものとしては、光村、光文ということなのですが、他の教科書では大体20から30カ所、自分に省みての問いが見られたわけですが。

先ほどの選定委員のほうの説明の中に、授業にあっては、登場人物等に共感する場面あるいは

葛藤する場面、さらには昇華する場面を設定し、そこで対話的で、主体的な学びなどを進めていければいいのだけでも、あらかじめ教科書にその方向性が書かれていると、教科書が求めているものに心を寄せてしまいがちで、葛藤し、昇華する場面が薄れてしまう、深まらないことが懸念されるのかなというふうにも感じています。

ちなみに、授業をやった後のアンケート、中には、先生の思いや考えを酌んで答えなければいけないとか、そういうふうにアンケートで書いた子どももいるようですけれども、それでは自分のことに振り返って考えを深めるという点では問題が残るのだろうというふうに思います。したがって、初めに結論ありきというようなことにならないように配慮する必要があるかなと、そういう視点で見てもいいのかなというふうなことを感じました。

住田委員長 確かに私も、展示会のアンケートを読ませていただいて、やはり押しつけにならない教育といえますか、そういうものの大切さをやはり市民の方は見ておるのだなということがわかりましたし、随分いろいろ、よく見て、子どもに考えさせるという、大切さといえますか、そういう点が随分感じさせられました。

吉田教育長 中には、あってはならないというものもあるのだろうというふうに思うのですが。ただ、それをうのみにしていると、多分、いろんな場面でそういう事象に出くわしたときに、果たしてそういう、心が育っていない状況の中で道徳的価値に迫るような行為ができるかというようなことがあるわけです。その辺、授業では一番、それぞれ現場では苦勞していると思うのですが、そういうことも頭に入れて選定する必要もあると思います。

住田委員長 他の先生方、いかがですか。

目標とのかかわりのほうは、とにかく、いろんなものを取り上げて、本当によく考えてある、今日的な、放置自転車を取り上げているようなもの、それからもっとすごいなと思ったのは、著作権の話まで出てきたのです。これは、すごくレベルの高いものまで取り上げているものとか、随分、幾つかの会社がありましたけれども、考えさせられるなという気がいたしました。

他になれば、次の観点に移りますけれども、よろしいですか。

〔なし〕と答える者あり〕

住田委員長 では、調査の2の観点、内容について意見はございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 資料に基づいてということですが、まず第1に、現代的な課題としてのいじめとか情報モラルに関して、取り上げに関して少し感じたことを一言二言申し上げたいと思います。

特に、もともと道徳が何で教科化されたかという、一番最初のきっかけがいじめだったということもありまして、いずれの教科書もやはりいじめに関して相当力が入っていて、非常によく記載されているなど感じました。ただ、目指すところは多分一緒なのだろうと思うのですが、取り上げ方としては、いじめという項目をばんと挙げて取り扱う、そういうふうな取り扱いの仕方

をしている教科書に関しましては、複数の教材と、例えばコラムを組み合わせるみたいな形で、1つの連続した時間の中でいろんな観点から見せようというふうな形の姿勢が見えました。それが大体、東書さんであったり、光村さんであったり、日本文教出版さんなのかなという感じです。他の教科書さんに関しましては、例えばいじめの問題というのは、自分自身に関することとしても取り上げられますし、他者からのかかわりという問題もございますし、あと集団との絡みという問題もあるので、そういった、もう少し大きなくりのテーマの中で散在させて、複数に分けてぼちぼちと考えさせるというふうな工夫も見られました。あとは、やはり、いじめに関しては、そういう扱い方もしながらも、独立した読み物コラムとしてまたいじめということを取り上げているというのも数社ございました。

情報モラルに関しては、いじめと若干違って、やはり独立して取り上げている教科書さんが多いのかなと思いました。成長過程に応じた教え方をするという意味では、例えば日本文教出版さんであれば3年生以上で扱っているというものもありました。

いずれにしても、いずれの教科書も、やはり重要な問題の、いじめであったり、情報モラルに関しては、かなりのページを割いてさまざまな工夫がされているなというのが正直な感想です。

以上です。

住田委員長 他の委員の方、どうですか。内容について。

吉田教育長 せっかく教科書が全部あるので、現代的な課題というところとか情報モラルというところについて取り上げているものを見比べてみたいと思うのですけれども。

例えば東書さんだと6年生の180ページ。ここで、情報モラルと書いてある、印がついている、非常にわかりやすくなっていますけれども、携帯と電話の使い方ということで書かれている。それから、同じ6年生のをずっと見ていくと、学校図書は、これは、81ページに安全にインターネットを利用しようとかというような形で書かれている。

光村は、157ページのインターネット上の権利ということで取り上げている。

それから、教育出版のほうは、36ページに食事中のメールということで取り上げている。

さらに、日文については、58ページで、これは情報モラルの達人チェックシートというので、これを順に追って、はい、いいえで答えていくと、あなたはどの程度ですよと出るような形になっているものです。

それから、光文は92ページ……

住田委員長 いや、先生、私も驚いたのですけれども。実は、1年生で出てくるのです。

吉田教育長 出てくる。5年生でも出てくるのです。

住田委員長 そういうところはいっぱいあるのですけれども。ネットマナーとは何でしょうかと、これは1年生の46ページですか、私もやはり見ていて驚いたのですけれども。

吉田教育長 92ページで情報モラル、携帯やスマートフォンの使用時間。

あと2つです。学研については、112ページなのですけれども、これはLINEそのものですよ、111ページから112ページの。まさに北九州市の私立高校で、今日の新聞に、いじめか高2自殺と出ておりました。

最後にあかつきですけれども、これについて、162ページ、著作権ですよ。

取り上げ方は結構まちまちなのですが、どれも工夫はされているのですけれども、ざっと見て、小学校6年生、さつき委員長さんがおっしゃったように、1年生から出ているということなので、全部比べてみないとわからないということもあろうかと思うのですけれども。子どもの興味、関心とか、あるいは議論する、道徳を通して、多面的、多角的に考えさせる工夫というようなことで考えると、日文さんとか学研さんのは、子どもは興味を持ちやすいし、より広がりのある題材になっているのかなというふうに、私としては思うのですけれども。これだけ見ても、これは6年生の一部しかない。だから、難しいと思いますけれども。

住田委員長 他にいかがですか。

いや、本当にすごく盛りだくさんです。

吉田教育長 どれも工夫されてはいるのですけれども、非常に多面的あるいは深い学び、そういうものに迫りやすいような、いわゆる資料がどれだけあるか、そういう点でどれだけ工夫されているかということが現場としては一番求めているのかな、子どもたちの学びもそういうところで深めていければ、より実践的なところ、道徳的な実践力というのも育っていくのかなというように気がしております。

住田委員長 よろしいですか。何か他には、内容に関してはいかがですか。

進藤委員 いじめとか、そういうことではなくて、また少し違ってくるのではないかと、道徳が今度、考え、議論する道徳への質的な転換ということを言われていますけれども、この点に関して感じたことをまた1つ2つ。

これに関しましては、学研さんが先ほども話題に出てきましたけれども、あえて主題名を教材に提示しないという特色があるのが非常に目を引きました。多分、出版社に関しましては、全部、主題名を教材に書いてある、あるいは出版社によって非常にそれを、導入部分に関しても幾つも発問して、テーマをすごく、そこでも既に議論させてしまうみたいなのところもありました。どちらのほうがいいのかというのは、それぞれ考え方なのかなという気がしますけれども、その辺が非常に目につきました。

それからあとは、やはり、末尾のほうにはやはり、学びのページであつたりとか、問題を見つけて考えると、いろいろ、タイトルはさまざまでしたけれども、ある出版社は、教科書の中でキャラクターを使って発問をさせたりとか、その辺で、議論させたり、考えさせたりする工夫が見られたのではないかなと。ただ、少し気になったのは、発問の数がやはり教科書によって全然違うというところ、そこは少ないほうが先生の裁量権が多くなっていいと見るのか、それともど

うなのかというところはやはり価値観の違いが出てくるところかなと感じました。

以上です。

吉田教育長 初心者といいますか、経験年数の浅い教員だと、やはりいろいろ書いてあったほうが進めやすいだろうと思うのです。ただし、さっき委員さんもおっしゃったように、深めようとしたときに、子どもたちが一番興味を失うのは、先が見えてしまうということ。中学校に行くと、なかなかそういう、深まらないというようなことも聞こえますけれども、それはやはり、いわゆる、ある程度見えてしまうというようなところが原因している、というようなことを考えると、やはり、自分の本音が引き出せるというのですか、その中でお互いに話をしながら、誰ちゃん、こう言ったけれども、これはこうだよ、でもねというような葛藤をさせて、そして価値に気づかせる、そういう流れをつくり出せるといいのだろうというふうに考えております。その点だと思うのですけれども。それで、余り先が見えてしまうようなものは、逆に子どもの興味、関心、特に高学年、年齢がかさむに従って、そういうものの興味、関心が薄れてしまうということはあるのだろうというふうに思います。

住田委員長 他にはいかがですか。

進藤委員 これも形式的なところなのですからけれども、少し1つだけ気になったのです。読み物教材に関しまして、ほとんどの教科書は出典が明記されていましたが、1社だけ出典が教科書に記載されていないのがありました。結構、読み物としても非常におもしろいので、これをきっかけに、例えば同じ作者のものを読んでみようと、この物語の続きを読んでみようとかなと思うことって多分あると思うので、やはりこれは、多分、先生に聞けばわかることだと思うのですけれども、やはり出典なんかはきちっと書いたほうがいいかなというのも、内容の深い意味のことに関してではないのですが、感じました。

以上です。

住田委員長 それにたしか、後ろのほうへそれぞれの推薦図書ではないですけども、載っているようなものもありました。

吉田教育長 これを読んでいて、教員が読んでいて、自分が感動する資料というのが一番子どもにも伝えやすいですか、余り伝え過ぎてしまうと、さっき言ったように、先生の心に乗せようという話になってしまうのですけれども、そうではない、うまい形でそういう資料のよさをうまく活用して、子どもに道徳的な価値に迫らせるような流れをつくり出すということは、つくりやすいというふうに思うのですが、余りにその分量が多いと、やはり授業時数が限られていますので、その点で、読みこなすのに大変だということになってしまいますと、必ずしも1時間でやりなさいという話ではないですけども、そういうところも少し考えていただいて。

住田委員長 長いのがありますがけれども。それから、本当に盛りだくさんで、先生の負担がすごく大きいなという。やはり、そういうことも展示会のご意見の中にも書いてありまして、情報量が

多過ぎるのではないかとか、そういうようなことがあるのですけれども。先生にとっても、幅の広さというのですか、勉強が1つのことではない、その周辺のことを全部勉強しなければ教えられませんから、大変な負担になるような気がするのですが。いかがですか。

吉田教育長 委員長さんのほうからそういうお話がありましたし、今の流れの中で、先ほど選定委員のほうも話がありましたけれども、やはり資料分析が進んでいるとしないとは、あるいはそれに共有が、そういう資料分析も含めた、いわゆる手づくりの教材の共有とか、そういうものが活用できるものがある、これは一つの財産というふうに思うのです。ですから、今までやってきた資料と同じような資料がどれだけ会社ごとにあるのかということになると、越谷では多い順でいうと、学研、あかつき、日文、学図という、こういうふうな順番になっているわけです。

先ほど言ったように、では経験の浅い人たちはそういう共通教材を、幾ら共通の教材があったって、それを使いこなす力量があるかということになるので、その辺は、先ほど言ったように、より、どっちが使いやすいかということになってしまうと一長一短があるのだらうと思いますけれども、今までの積み重ねを活用するという観点でいえば、どれだけ同じ資料が使われているのかということについても少し見ていく必要があるというふうに思いました。

住田委員長 他にはいかがですか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 では、次に進ませていただきますけれども、よろしいですか。

では、調査の観点の3で、資料及び調査の観点4の表記・表現についてご意見ございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 いずれの教科書にもさまざまな工夫があると思いました。

印象に残ったことといたしましては、3の資料の観点では、東京書籍では、子どもがイメージしやすいような挿絵を使っていると思いました。日本文教出版では、資料を豊富に使っているのが特徴であると思えます。それから、学研教育みらいでは、親しみやすい絵や写真を大きく使っていると思いました。

それから、4の表記・表現の関係では、光村図書が細かいところまで丁寧に記述していると思いました。それから、光文書院は、子どもたちにとって楽な漢字が使用されておると思えます。学研教育みらいでは、用語の説明がすぐわかるところに書いてある点がよいと思いました。

あと、何点か、少し思ったことで、教科書の大きさとか重さですけれども、子どもたちのことを考えると、やはりランドセルが重くなるので、なるべく負担にならないほうがよいですが、先ほど選定委員さんのほうからもありましたけれども、内容重視というのはやはり大切なことだと思いました。

あと、教科書単体のものと別冊、分冊がついているものとありますけれども、それぞれに長所

があると思います。

それから、道徳の授業で扱った内容につきまして、子どもたちがやはり家庭に帰って、家庭で話すということも大事なのではと思いました。

吉田教育長 重いという、確かに登校風景なんかを見ているとかわいそうな感じのときもあるのですが、道徳は、今度は教科書と、それと県の資料があります。それと越谷でもつくっているものもあります。さらに、国の本もございます。それを全部持ってくるのかと、現場の校長に少し聞いたのです。いや、それは1冊ずつだから、大丈夫、心配要らないというふうにおっしゃっていましたので。

先ほど私、少し申しましたけれども、私自身、これを読んでみて、ぐっとくるような資料もありますので、これは親御さんに読んでもらってもいいのかな、家庭に置いていただいて、そういう、道徳に関わるものがあるということは、それなりにいいことだと私自身は思います。

住田委員長 他にはいかがですか。

進藤委員。

進藤委員 先ほど来、やはり分冊か、1冊か、やはり中身だろうという話にはなりましたけれども、分冊で、私が、ああ、なるほど、よく工夫されているなと思ったのが実は学校図書のノートのほうでして、通常、ノートというのは教材の教条ごとにページがめくられていくと思うのですが、こちらの学校図書に関しましては、項目ごとに見開きでまとめられるようになっているので、後日、勉強が進んでいって、過去にやった、自分が書き込んだことも改めて見返してできるということで、非常に工夫がされているなというふうに感じました。

住田委員長 分冊か、1冊かという話は非常に難しいですけども。

いや、私はとにかく、時々、孫のランドセルを持つ機会があるものですから、少しはかってみただのです。まず、これが、一番、これは大きいのが学研です。これがまさにA4判そのものです。あとは、小判なのは、光村でしたか、これは非常に小さい、そういったようなことも、展示会の意見の中にもいろいろ書いてありましたけれども。あと、重さの問題です。一番重いのがあかつきです。6年生、これは2冊ですと510グラムです。そして、推薦いただいた東京書籍は、6年生は385グラム、私の家庭用の上皿ばかりですから、そんなに正確ではないと思いますが、割合に軽かったです。学校図書は、分冊で見ますと、それは合わせて6年生は490グラム、割に重いほうでしたし、教育出版、これが335グラム、これは割に軽いやつで、一番軽かったのではないかと。ただ、横がある。光村が308グラムで、割に軽目だったです。それから、日文は分冊ですけども、445グラム、光文が465グラム、学研が400グラム、割合に大きいにしては軽かったような気がしました。それぞれ、ランドセルに入らないものではないと思いますし、本当に内容が盛りだくさんで、いろんなことを取り上げていますから、そうなるのだと。

他にいかがですか。よろしいですか。では、観点の3、4についてよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 では、最後に観点の5の総括について、全体を見て、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと、こう思います。

私の意見を少し言わせていただきますと、先生方の負担は大変なものです。さっきも少し言いましたけれども、いろんなことが挙げられています。1年生から6年生まで今日的なもの、それから古い、かなり、江戸時代のものとか世界的なもの、あるいは非常に身近な出来事、本当に、大なり小なり、あるいは広がりとか、いろんなことが入っていて、先生方、特に若い先生方は大丈夫か、ただ教えるという、そのことだけ勉強して、その周辺のことを知らないと非常につらいだろうなという、先生方の負担を感じています。それから見ていて、越谷とか、あるいは埼玉県とか、非常に身近な、例えば一昨年ですか、その前ですか、小学校のテキスト、例えば権現堂の桜とか、ぱっと見たときに、子どものときから知っている場所、行ったことのある場所というような感動があったり、そういうような教科書がありました。

ところが、越谷で出ていたのは、ノーベル賞のことで梶田先生のことが2社しか挙がっていなかったし、大村先生がぱっとその年に来られた、その下に少しだけ、半ページぐらい紹介して、あるいは1つにはたった1行、何年に梶田先生が、と。確かに越谷の住民ですと、余りなじみがないと。前は、やはり、例えば能楽堂が、野外というのもあって、越谷市のものとして紹介されております。そういうふうに考えると、副教材をつくっていただく意味というのは非常にあるのだなというふうに私は思っています。

確かに埼玉県の中でも、盆栽美術館ですか、大宮の、それが紹介されているような、これは日本文教出版ですか、それが3年生に紹介されています。それからあと、渋沢栄一を取り上げたようなところも、たしか1社ぐらいしかなかった、もう少し埼玉県の中で身近に、みんなが知っているところを取り上げてもらいたかったなというような気がしています。

あと、例えば日本の、特に米の問題です。いろんな種類ある中で、残念ながら彩のかがやきは出てこないです。あれが載っていたらなと私は思ったのですけれども、そういうようなことで、少し身近なところで取り上げてもらいたかったなと、どの社にも言えるのですけれども、これは先生方、いかがですか。

吉田教育長 では、1つだけ。若手の教員の心配をされていたので、私も随分そういう話なんかをしてしまったもので。

ある程度、道徳を進んでやっているような学校の例で話をしますと、例えば初任者で来られた、あるいは比較的経験の浅い方が学校に来て数カ月たって、道徳の授業なんかを見させていただくと、かなりいい道徳の実践をされているというのがありまして、その学校の取り組みの状況にもよるのだろうと。さっき、共通教材もやったり、あるいは気軽に隣の授業を見てもらったり、あるいは道徳なんかでも入れかわりもできますし、そういう授業をしてもらったりするような工夫

をして、割と早く、もう3年、4年たっているような教員かなと見まがう、そういう指導をする教員もおりますので、そんなに、余り心配することはないかなというふうに思っております。

住田委員長 あとはやはり、さっきも出ましたけれども、家庭において、やはり親に読んでもらいたいな、そういうのが非常にもったいないな、これをみんな親に知っていただきたいと。

他に何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 他にないようですので、これより道德の教科用図書に係る採択に入ります。

冒頭に申し上げましたとおり、採択は無記名投票により、5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものとしたと思います。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

住田委員長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

住田委員長 それでは、投票をお願いしたいのですけれども、点呼をお願いします。

〔点呼に応じ順次投票〕

住田委員長 投票を終了いたしました。投票漏れはございませんね。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、堀川委員、それから進藤委員を指名したいのですが、よろしくをお願いします。

〔立会人立ち会の上開票〕

住田委員長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

2番	東書	19
11番	学図	16
17番	教出	15
38番	光村	21
116番	日文	18
208番	光文	18
224番	学研	24
232番	廣済堂あかつき	15

以上のとおりでございます。

それでは、これより第25号議案 平成30年度使用小学校教科用図書の採択についてを採決いたします。

投票の結果、評価点の最も高かった、224番の学研、学習研究社の教科用図書を採択する旨決することに異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

住田委員長 ご異議ないものと認めまして、本案は以上のように決定いたしました。

◎休憩の宣告

住田委員長 ここで、議案の審議までが終了しましたので、約15分間休憩とし、11時40分から会議を再開しようと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは、休憩してください。

休憩 午前11時25分

再開 午前11時40分

◎開議の宣告

住田委員長 再開いたします。

◎教育外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策について

住田委員長 それでは、続きまして、協議事項に入ります。

教育外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策について、教育長の説明をお願いいたします。

吉田教育長 教育総務課長。

渡辺教育総務課長 それでは、平成29年度教育委員会の事務に関する点検評価における教育外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策についてご説明いたします。

5月の定例教育委員会会議において、平成29年度教育委員会の事務に関する点検及び評価の実施要領についてご協議いただいたところですが、本日は、教育に関し学識経験を有する者による外部評価を実施するに当たり、教育外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策について委員の皆さんにご協議いただき、ご意見等をお伺いできればと存じますので、よろしくお願ひいたします。

恐れ入りますが、会議要項の13ページをお開きください。初めに、教育外部評価者につきましては、昨年度と同様、3名の方にお願ひしたいと考えております。まず1人目は、佐々木一彦氏でございます。佐々木氏は、足立区教育委員会において管理職を歴任された後、教育長として2期8年、足立区の教育行政の推進に尽力され、退職後は文教大学人間科学部非常勤講師として教育社会学や社会教育計画等の講義を行うなど、教育分野において幅広く活躍されております。また、平成24年度から平成26年度の3年間、本市の教育外部評価者をお務めいただいた経験もございます。

お二人目は、昨年度に引き続きまして埼玉県立大学からご推薦いただきました、埼玉県立大学保健医療福祉学部共通教育科教授兼ねて埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科教授の東宏行氏でございます。ご専門は教育学でございます。東氏は、職業教育、キャリア教育に関する研究を基礎として、教育センターの相談員、スクールカウンセラー等の実践にも長年携わってこられ、現在は主に臨床教育学の研究をされております。

3人目は、文教大学から新たにご推薦いただきました、文教大学人間科学部人間科学科専任講師の村上純一氏でございます。村上氏は、教育学を専門としており、教育行政学、学校経営論、キャリア教育政策論に関する研究をされております。

以上、教育外部評価者3名の方々には、教育外部評価の対象となる施策の内容だけでなく、教育振興基本計画や教育行政重点施策についてもご理解いただいた上で、それぞれのお立場から越谷市の実情を踏まえたご提言をいただきたいと考えております。

続きまして、教育外部評価の対象となる施策につきましては、事務局案といたしまして次の4項目を選定いたしました。学校教育に係る基本目標1からは、伝統文化を尊重し国際性を育む教育の推進及び教職員の資質向上と研修環境の充実、生涯学習に係る基本目標2からは芸術文化活動の推進、生涯スポーツに係る基本目標3からは組織の充実でございます。第2期越谷市教育振興基本計画に位置づけられた27項目の施策の中からこの4項目を選定するに当たりましては、新規、充実した事業の有無や過去に実施した外部評価との関連性など、一定のルールのもと、各課所と調整させていただきました。

14ページから17ページになりますが、参考として、27項目の施策のうち、教育外部評価の対象となる施策を網かけで表示しておりますので、ご参照いただければと存じます。

続きまして、18ページから22ページになりますが、こちらは教育外部評価の対象となる施策に係る内部評価調査でございます。現時点での各課所の評価結果を記載したものでございます。ご参照いただければと存じます。

続きまして、23ページから30ページになりますが、こちらは教育外部評価結果を記載する表となっております。本日、外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策が決定しました後に、予定では8月25日に外部評価者によるヒアリングを実施するとともに、ヒアリング結果を踏まえて外部評価者の意見をいただきたいと考えております。その後、10月の定例教育委員会会議において、教育外部評価の実施結果等も含めた27項目の施策全ての評価調書につきまして内容をご協議いただきまして、これを次年度の教育行政重点施策及び当初予算の編成に反映することで、PDCAのマネジメントサイクルに基づきまして、点検評価の結果を改革、改善へとつなげてまいりたいと考えております。

教育外部評価者及び教育外部評価の対象となる施策についての説明は以上でございます。ご協議のほど、よろしく願いいたします。

住田委員長 これより協議に入ります。

ご意見等ございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 ないようですので、このように進めていただければと思います。

それでは、「案」の字を取っていただきたいかと思います。評価者及び対象となる施策の「案」を取っていただければと、こんなふうに思います。

◎平成29年度越谷市教育費補正予算について

住田委員長 次に、平成29年度越谷市教育費補正予算について、教育長のご説明をお願いいたします。

吉田教育長 学校教育部長。

瀧田学校教育部長 それでは、平成29年度越谷市教育費補正予算の要求内容についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、別冊の平成29年度越谷市教育費補正予算総括表及び予算説明書の2ページ及び3ページをご覧ください。

初めに、歳入についてご説明いたします。3ページの表の一番下にごございます歳入合計欄をご覧ください。教育委員会に関連する歳入の要求につきましては、今回、36万5,000円を減額し、補正後の総額は20億5,887万1,000円となります。

歳入の内容でございますが、10ページ及び11ページの(1)、歳入予算説明書をご覧ください。13款国庫支出金、2項国庫補助金、5目教育費国庫補助金につきましては、発達支援訪問指導に係る教育支援体制整備事業費補助金として45万円を追加する他、幼稚園就園奨励費補助金として1,500万円を追加するものでございます。

19款諸収入、6項雑入、1目雑入につきましては、しらこぼと運動公園競技場円盤・ハンマー投げ用囲い購入に係るスポーツ振興くじ助成金として480万円を追加する他、その他雑入として、市主催のスポーツ大会におけるけがに対する市民総合災害等補償金8万5,000円を追加するものでございます。

20款市債、1項市債、6目教育債につきましては、学校給食センターの真空冷却機等の契約額の確定に伴い、給食センター整備事業債として2,070万円を減額するものでございます。

次に、歳出の内容でございますが、戻りまして、5ページ下段の教育費に係る歳出合計欄をご覧ください。今回、8,273万9,000円を追加し、補正後の総額は93億7,488万2,000円となります。

歳出の主なものについてご説明を申し上げます。16ページ及び17ページの(3)、事業別予算説明書をご覧ください。1項教育総務費、2目事務局費のうち特別支援教育支援員等配置事業につきましては、特別支援教育支援員等の配置に伴う臨時職員賃金として535万5,000円を追加するも

のでございます。

中段の3目学校教育指導費の外国語指導事業につきましては、外国語指導委託料の契約額の確定に伴い、855万2,000円を減額するものでございます。

下段の2項小学校費、1目学校管理費のうち小学校施設改修費につきましては、老朽化による緊急性の高い箇所の施設改修工事を行うため、2,270万円を追加するものでございます。

18ページ及び19ページをご覧ください。中段の3項中学校費、1目学校管理費のうち中学校施設改修費につきましては、老朽化による緊急性の高い箇所の施設改修工事等を行うため、1,616万円を追加するものでございます。

下段の5項幼稚園費、1目幼稚園費の幼稚園就園奨励費につきましては、執行見込み額の増加に伴い、幼稚園就園奨励費補助金7,000万円を追加するものでございます。

20ページ及び21ページをご覧ください。7項保健体育費、2目学校給食費のうち備品整備事業につきましては、学校給食センターの真空冷却機等の契約額の確定に伴い、2,760万円を減額するものでございます。

下段の7項保健体育費、3目体育費のその他体育費につきましては、市主催のスポーツ大会におけるけがに対する補償金16万円を追加するものでございます。

9月補正予算の要求に係るご説明は以上でございます。ご協議のほど、よろしくお願い申し上げます。

住田委員長 これより協議に入ります。

ご意見等ございますでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 それでは、このように進めていただきたいと思います。

◎その他

住田委員長 それでは、続きまして、その他の報告事項に入ります。

平成29年度第1回越谷市いじめ問題対策連絡協議会について及び平成29年度第1回越谷市いじめ防止対策委員会については、関連があるため、一括して教育長のご説明を求めたいと思います。よろしく願いいたします。

吉田教育長 指導課長。

小林指導課長 それでは、平成29年度第1回越谷市いじめ問題対策連絡協議会及び平成29年度第1回越谷市いじめ防止対策委員会についてご報告いたします。なお、2つの会議は相互に関連しておりますので、一括してご説明申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の31ページをご覧ください。初めに、平成29年度第1回越谷市いじめ問題対策連絡協議会についてですが、平成29年6月28日、水曜日、15時より市役所第三庁舎5

階の第5、第6会議室にて、委員11名全員の出席をもって開催いたしました。会議は公開ですが、傍聴者はおりませんでした。

会議は、お手元の次第に従って進行いたしました。議事の審議状況ですが、事務局からの説明後、資料に記載した内容について協議が行われました。学校いじめ防止プログラム及び事案干渉マニュアルの作成や学校の方針の改定、いじめ相談ポストやスマホ、携帯の共有ルールなどについてご協議いただきました。詳細については、恐れ入りますが、会議要項の32ページ及び33ページをご参照いただき、ご理解賜りたいと存じます。

続きまして、恐れ入りますが、会議要項の35ページをご覧ください。平成29年度第1回越谷市いじめ防止対策委員会についてですが、平成29年7月10日、月曜日、15時より教育委員会室にて、委員5名全員の出席をもって開催いたしました。こちらの会議も公開ですが、傍聴者はおりませんでした。

会議は、お手元の次第に従って進行いたしました。議事の審議状況ですが、事務局からの説明後、資料に記載した内容について協議が行われました。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置や学び総合指導員の訪問、子ども第一の対応や教師のメンタルヘルスについてなど、さまざまなお立場からご協議をいただきました。詳細については、恐れ入りますが、会議要項の36ページ、37ページをご参照いただき、ご理解賜りたいと存じます。

平成29年度第1回越谷市いじめ問題対策連絡協議会及び平成29年度第1回越谷市いじめ防止対策委員会についてのご報告は以上でございます。

住田委員長 ただいまの事務局のご説明に対しまして、ご質問またはご意見等ございますでしょうか。

第1回は終わったのですけれども、第2回はあるのでしょうか。

小林指導課長 第2回は、2月ごろを予定しています。

住田委員長 他、よろしいでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 では、この件については以上といたします。

他に何かございますでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

住田委員長 最後に、次回の教育委員会会議の日時でございますが、8月24日の木曜日、午前10時から教育委員会室で開催したいと存じます。いかがでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

住田委員長 では、そのようにいたしますので、よろしく願いいたします。

◎閉会の宣告

住田委員長 それでは、本定例会に提出されました議案等、全て終了いたしました。
これをもちまして、閉会といたします。

(午前11時55分)

この会議のてん末記載に相違ないことを証するため、署名する。

委員長 住田 俊

委員 堀川 智子

委員 進藤 秀子

委員 荒木 明子

委員 山口 茂
(教育長)

書記 教育総務課副課長 並木 智史